月号塾だ よ

今月号のトピックス

- ·新講師紹介(矢田)
- ・高校生になっても...
- ・私は苦手をこうやって克服した。 (樋口)
- ・二学期期末テスト対策期間

<二学期期末テスト対策期間>

今回のテスト対策期間は、学校ご とに違うテスト日に考慮して、開始 日を変えています。

最も早い福原中、芳野中、城南中 3年生は10月29日(木)からスタートしますが、そのほかの学校(学年)はテスト日に合わせて対策期間のスタート日を変えております。配布されたスケジュール表をしっかり確認してください。

新講師紹介(矢田 力椰 やだりきや)

10月から山口学習塾に新しく赴任しました、講師の矢田力椰です。 私は、13年前にこの塾の最初の生徒として入塾しました。当時の 教室は、自習室と授業部屋をどんなに敷き詰めても15人しか入らな いようなアパートの一室で、そこで山口先生に算数と国語をマン ツーマンで教えてもらっていました。当時を思い返して、今でも鮮 明に覚えていることがあります。それは、小6の冬から始まった20点 満点の英単語テストで、何度同じテストを受けても4点くらいしか取 らなかった私を見かねた先生が、「やる気がないならもう塾をやめ ろしと叱ってくださったことです。当時の塾の規模からして、生徒 一人が辞めることは死活問題のはずですが、それでも先生は叱って くれました(当時の私はそんなこと知りもしませんが)。それで私は 「やばい」と思い、父にも協力してもらって、3時間かけて英単語20 個を覚えきりました。それが、私がこの塾に入って一番初めにした 「努力」でした。覚えることの楽しさを知った私はそこから英語が 大好きになり、定期テストでは毎回のように90点以上を出し続け、 高校は外国語学部に進学しました。あの時先生が叱ってくれなけれ ば、今の自分は無かったと思います。

中3の受験期には、内申点が1・2年の時点で志望校の基準値から18点下回っていたので、このままじゃ受からないと思い、必死に勉強しました。当時私が一番意識していたのは「誰よりも早く塾に来ること」です。先生より早く来たこともあります。学校からまっすぐ帰って10分仮眠して塾に行く、そんな生活を半年間続けていました。自分より早く来ている友達がいたときには本気で悔しがり、何時に来たのか聞いて、その分いつもより集中して勉強しました。その努力のおかげで、3年の内申点は志望校の基準値にまで達し、合格することができました。今振り返っても、あの時した努力は、「してよかったもの」だと胸を張って言えます。

高校卒業後もサポーターとして山口学習塾にかかわり続け、この度、 講師として戻ることとなりました。

まだまだ分からないことだらけですが、皆さんの成績アップのために精一杯頑張りますので、これからよろしくお願いいたします。

(矢田)

高校生になっても・・・

今年は毎日のように高校生が自習にやってきます。ご存じの通り 山口学習塾は小中学生の学習塾です。高等部はありません。ですか ら、卒業生は完全に自発的に勉強をしに来ているという形になりま す。われわれに言われるわけでなく、自分の意志で勉強をしに来て いるということです。

では彼らが小中学生のときにも成績優秀で自ら進んで学習ができる生徒だったのか?というと全くそんなことはありません。むしろ目を離すとすぐに寝ていたり、適当に課題を終わらせたり、手を抜くようなタイプの生徒もいたのです。

彼らが高校生になってなぜ自発的に勉強をできるようになったのか。もしかしたら、他の学習塾の先生なら「これこれこういうことをすると自発的に勉強できる生徒になる」と理論立てて説明できるのかもしれません。

でも私は何年塾講師をやっていても、このような生徒の成長がどうやったら実現できるのか、情けないことに全く分からないのです。もし、私が分かっているのなら、おそらく100%の生徒の意欲を上げることができて、100%の生徒の成績を上げることができているはずです。もちろん、そこを目指してスタッフ一同もがき続けていますが、まだまだ到達できずにいるのが現実です。

それでも、誰に何を言われなくても自習に来てくれる卒業生たち を見ていると、自分たちの仕事が少しは誰かの人生に役に立ってい るのかもしれない、と嬉しく思う部分があります。

CMで言われているようなスイッチを押して実現できるなら、こんなに楽なことはありません。どういう生徒が自発的にやる気になるのか、 それはいまだに分からない部分が多いです。

でも、自習に来てくれている卒業生の誰もが、挫折を経験し、苦 しい思いもしながら、それでも必死に自分を追い込んだ記憶を持っ ている生徒ばかりな気がします。

「こんなもんでいいか」と努力の限界値を自分自身で下げて、甘 えていた生徒で卒業後も自習に来る生徒は本当に稀だと思います。 ここで自分自身を追い込んで悔しい記憶も嬉しい記憶も刻んだ生徒 たちは、われわれが教えなくても自ら学習する意義や、自分の限界 に挑戦する必要性を学んでくれるのかもしれません。

(10月に入社した講師の矢田もそのうちの一人だと私は思っております。)

私は苦手をこうやって克服した。

勉強が苦手。英単語が覚えるのが苦手。英文法が苦手。計算が苦手。漢字が苦手。本を読むのが苦手。化学反応式が苦手。歴史の人物名を覚えるのが苦手など、人によって苦手なことは様々だと思います。そして誰だって、苦手なことや嫌いなことを自ら好んでやりたい人と思う人はいません。私だってそうです。中学生の頃の私ももちろん勉強が好きではありませんでした。そして特に英語、国語、社会が苦手で嫌いでした。だからこそ、生徒が苦手なことから逃げてしまっている姿をみて、苦手なことに立ち向かっていくことは下しまっている姿をみて、苦手なことに立ち向かってきます。以前も塾だよりに書いたとは思いますが、私自身がどうやって苦手なことを克服しようとしていたかをまとめてみようと思います。少しでも皆さんが苦手なことを克服する時の参考になればと思います。

まず、英語と上手く付き合っていけるようになったのは、ある曲 のおかげです。その曲はWham(ワム)の「Last Christmas」(ラストクリ スマス)という曲です。とても有名な曲でクリスマスの定番中の定番 の曲なので、皆さんも聞いたことがあると思います。去年のクリス マスの次の日に彼女に振られてしまった男の歌です(笑)。この歌を 聞いて英語への興味が少し湧いてきたのを覚えています。私は今で もこの曲が大好きで、クリスマスが近くなってこの曲が街に流れ出 すと何だかワクワクしてしまいます。次に漢字を覚えるのが苦手 だった私は、新聞の広告の裏にひたすら漢字を書くという、今思え ば愚かな行為を実行しました。広告を何枚も並べてひたすら漢字を 書いていきました。指や腕が痛くなって、ペンが握れなくなるまで ひたすら漢字を広告の裏に書いていきました。今思うと効率の良い 勉強方法ではなかったと思いますが、その指や腕の痛みに充実感を 覚え、楽しかったことを覚えています。大の苦手だった社会につい てはテスト勉強の時間のほとんどを社会に使うという、これまた極 端な行動を実行しました。もちろん、皆さんのご想像の通り、他の 教科のテストの点数はボロボロでしたが、社会だけは自己最高得点 を取ることができました。そこから自分の中で社会の勉強への取り 組みが少し変わった気がします。

苦手なことを克服しようと私がとった行動は効率的な方法ではなく、決して皆さんにおすすめできるものではありませんが、自ら考えて、いろいろ試行錯誤することだ大事だったのかもしれません。 是非、苦手を克服する良い方法を皆さん自身でが編み出してみてください。